令和7年6月4日

第6回定例会
議事録

文京区教育委員会

文京区教育委員会議事録

第 6 号

令和7年 第6回 定例会

日時：令和7年6月4日（水）午後2時

場所：区議会第二委員会室

「出席」

教 育 長	丹 羽 恵玲奈
教育長職務代理者	清 水 俊 明
委 員	福 田 雅
委 員	中 野 円 佳

「説明のために出席した教育局職員」

教育推進部長	吉 田 雄 大
教育総務課長	熱 田 直 道
学 務 課 長	宮 原 直 務
教育推進部副参事	内 山 真 宏
教育指導課長	山 岸 健
児童青少年課長	日比谷 光 輝
教育センター所長	木 内 恵 美
真砂中央図書館長	猪 岡 君 彦

「書記」

庶 務 係 長	大 川 育 子
庶 務 係 主 査	平 手 由佳莉

令和7年

第6回教育委員会定例会

令和7年6月4日（水）午後2時
場 所 第二委員会室
議事録署名人 清水俊明委員

第1 議事録の承認

議事録第4号 （令和7年第4回定例会）

第2 議案の審議

第52号議案 「文京ドリームプロジェクト「街と能登の応援フェス」の後援名義の使用について

第53号議案 「第4回文京思い出横丁」の後援名義の使用について

第54号議案 「第7回平和を願う文京戦争展」の後援名義の使用について

第55号議案 「第10回電子オルガンコンサート」の後援名義の使用について

第56号議案 「文の京、文京区だからできる！夏の自由研究スペシャル 日本を知り、世界を知る名誉教授らと体験する科学」の後援名義の使用について

第3 報告事項

(1) 令和6年度学校評価の報告について

(資料第1号)

第4 その他の事項

「開 会」

(14:00)

○丹羽教育長 お暑い中、お集まりいただきましてありがとうございます。それでは、定刻になりましたので、第6回教育委員会定例会を始めさせていただきます。

まず、出席状況から確認させていただきます。委員は、小川委員がご欠席です。そのほかの委員はご出席いただいております。理事者は、藤咲教育施策推進担当課長が欠席しております。

本日の議事録署名人ですが、清水委員にお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

(はい)

第1 議事録の承認

議事録第4号 (令和7年第4回定例会)

○丹羽教育長 それでは、議案日程に入らせていただきます。

第1「議事録の承認」です。議事録第4号がお手元にあると思います。事前にご確認いただいておりますが、なお訂正の必要がありましたら、この回の終了までにお申し出いただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

第2 議案の審議

第52号議案 「文京ドリムプロジェクト「街と能登の応援フェス」の後援名義の使用について

○丹羽教育長 それでは、議案の審議に入らせていただきます。本日は5件ございます。

初めに、「文京ドリムプロジェクト「街と能登の応援フェス」の後援名義の使用について」です。

本件は、福田委員が所属する公益財団法人日本サッカー協会の主催であるため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第6項の規定に基づき、福田委員は議事に加わることができませんので、ここで退席をお願いいたします。

(福田委員 退席)

○丹羽教育長 それでは、この件について説明をお願いします。

○教育推進部長 ただいま議題となりました第52号議案、「文京ドリムプロジェクト「街と能登の応援フェス」の後援名義の使用につきまして、提案理由をご説明いたします。

1 ページの後援名義使用申請書をご覧ください。

申請団体は、公益財団法人日本サッカー協会。

代表者は、宮本恒靖でございます。

事業名は、文京ドリムプロジェクト「街と能登の応援フェス」。

実施は、令和7年8月5日(火)から8月7日(木)までの3日間を予定しております。

実施場所は、日本サッカー協会「JFAハウス」、東京ドームでございます。

本事業は、令和6年能登半島地震で甚大な被害のあった石川県輪島市の中学校2年生を、当協会と文京区との相互協力協定に基づき、学校活動の一環として文京区へ招待し、区立中学生との交流

を通じ、相互理解や防災意識の向上を図るとともに、心身の健全育成に寄与することを目的としております。

対象は、区立中学校の生徒及び輪島市立中学校2年生。

参加費は、無料となっております。

このほか、資料といたしまして、企画概要、事業予算書、規則・定款等がございます。

以上の内容を後援名義等使用承認要綱の規定に照らし、後援名義の使用を承認したいと考えるものでございます。よろしくご審議の上、ご決定賜りますようお願い申し上げます。

○丹羽教育長 この説明について、ご意見、ご質問等がございますでしょうか。

○清水委員 これは東京ドームの外野部分を使用するということですが、その使用料はなしと考えてよろしいでしょうか。

○教育総務課長 事業予算書には使用料は記載しておりませんので、明確に確認したわけではありませんけれども、使用料というのは何らかの形でこの事業で負担をしないような形になっているものと考えております。

○清水委員 支出で計上されていないので、恐らくかからないのだと思ったんですけれども、普通に野球をやったりするのに、我々は結構お金を払って使用しているものですから、その辺がどうなのかと思ってお聞きしました。

以上です。

○丹羽教育長 ほかにはいかがでしょうか。

○中野委員 イベント自体は素晴らしいなと思います。私はたまたま5月に輪島市に行ったんですが、むしろ文京区の中学生在が輪島市へ行ってもすごく学ぶことが多いだろうなという印象を持ちました。

そういう意味で、今回は、こちらは日本サッカー協会と文京区が協定を結んでいて、輪島市の教育委員会とか、輪島市と文京区教育委員会の関係はどのようになっているのでしょうか。

○教育総務課長 まず、サッカー協会と文京区は、相互協力に関する協定を結んでおります。サッカーその他のスポーツの普及振興事業とか、青少年育成事業、相互協力に伴う施設の利用、その他の前条の目的を達成するために必要があると認めたことという内容の協定を結んでおります。

輪島市との間では、いわゆる友好都市のような協定という形ではないのですが、令和6年の能登の地震のときに、文京区からも、輪島市に職員を派遣して支援を行うなど、そういったつながりはございます。

○中野委員 別にそれでいいのかなという気もするんですけれども、これは夏休み中であるにもかかわらず区立の中学校の中学生に限定されているのは、あくまでも学校の枠組みで募集をされる予定なのでしょうか。

○教育総務課長 一応、学校を通じて子どもたちの募集をしますので、ここは区立中学校という形になっております。いわゆる区立ではない、例えば私立に通うお子さんとかにつきましては、参加対象にはなっていないというところでございます。

○丹羽教育長 この事業は、実は小さい形で昨年度も行っておりまして、昨年度は、特に後援とかということにはなかったのですが、去年は輪島市の教育長がいらして、私もお会いしているのです。

特に決まった形ではないのですが、そういう形での関係が少しできていたということでございます。
ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、お諮り申し上げます。ただいまの件につきまして、提案理由のとおりお認めしてよろしいでしょうか。

(異議なし)

○丹羽教育長 それでは、そのように決定させていただきます。

福田委員が戻るまで、少々お待ちください。

(福田委員 着席)

○丹羽教育長 それでは、改めて申し上げます。第 52 号議案は承認されました。

以上、ご報告申し上げます。

第 53 号議案 「第 4 回文京思い出横丁」の後援名義の使用について

○丹羽教育長 続いて、第 53 号議案「第 4 回文京思い出横丁」の後援名義の使用について」でございます。この件について説明をお願いいたします。

○教育推進部長 ただいま議題となりました第 53 号議案、「第 4 回文京思い出横丁」の後援名義の使用につきまして、提案理由をご説明いたします。

1 ページの後援名義使用申請書をご覧ください。

申請団体は、NPO 法人文京 BASE。

代表者は、北永久でございます。

事業名は、第 4 回文京思い出横丁。

実施は、令和 7 年 8 月 24 日（日）を予定しております。

実施場所は、浄土宗無量山傳通院でございます。

本事業は、区内の在住・在勤・在学者や地域団体が主体的に企画・運営する地域密着型の祭りであり、児童・生徒が地域の大人と協働しながら準備や当日の活動に参加することで、主体性や協調性を育み、実践的な社会教育の機会を得ること等を目的としております。

対象は、区内在住・在勤・在学者。

参加費は、無料となっております。

このほか、資料といたしまして、事業計画書、事業予算書、定款等がございます。

以上の内容を後援名義等使用承認要綱の規定に照らし、後援名義の使用を承認したいと考えるものでございます。よろしくご審議の上、ご決定賜りますようお願い申し上げます。

○丹羽教育長 この説明につきまして、ご意見、ご質問等がございますでしょうか。

○福田委員 非常にいい企画だと思って拝見していたのですが、1 点だけ。以前にもこのような企画の際に申し上げたのですが、この時期の暑熱の対策だけは、事前に徹底しておいていただければなと思います。パッと見た感じ、暑熱対策等についての記載がなかったものですから、ちょっと気になった次第です。

以上です。

○教育総務課長 今回の資料の 8 ページをご覧くださいと思います。中ほどあたりの「安全管

理と環境整備」というところに「子どもたちの健康状態にも配慮し、休憩や水分補給を促します」という記載がございます。ですので、主催者としては、そのあたりには配慮する、意識しているというのはこれでわかりますけれども、主催者のほうには改めて伝えてまいりたいと思います。

○丹羽教育長 ほかにいかがでしょうか。

○清水委員 今回、4回目ということですが、ここに来て後援を依頼された理由を教えてください。

○教育総務課長 第1回から第3回は、いわゆる地域の祭りということで実施いたしまして、今回のような小・中学生が自分たちで企画をするブースがありませんでした。今回、第4回で、新たにそういった小・中学生が自分たちでブースをつくるというようなことを組み入れた。その関係で、今回、教育委員会のほうに後援の申請が出たということになっております。

○清水委員 その小・中学生特別ブース参加計画ですか、これも非常に詳細に書かれていますし、それでかなとは思ったんですが。

1点、雨天の場合は中止なのか、順延なのか、どこにも書いていなかったような気がしたのですが、いかがでしょうか。

○教育総務課長 確かに、資料の上では記載はございませんけれども、雨天になった場合は、何かしら主催者のほうで工夫をして、子どもたちにとってプラスな経験ができるように配慮すると考えております。また、そのように伝えていきたいと思います。

○清水委員 では、雨天の場合の何らかの計画も立っている、あるいはこれから立てていくということよろしいですね。

○教育総務課長 はい。

○丹羽教育長 ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、お諮り申し上げます。ただいまの件について、提案理由のとおりお認めしてよろしいでしょうか。

(異議なし)

○丹羽教育長 そのように決定させていただきます。

第54号議案 「第7回平和を願う文京戦争展」の後援名義の使用について

○丹羽教育長 続きまして、第54号議案「第7回平和を願う文京戦争展」の後援名義の使用についてでございます。それでは、説明をお願いいたします。

○教育推進部長 ただいま議題となりました第54号議案、「第7回平和を願う文京戦争展」の後援名義の使用につきまして、提案理由をご説明いたします。

1 ページの後援名義使用申請書をご覧ください。

申請団体は、平和を願う文京戦争展実行委員会。

代表者は、小竹紘子でございます。

事業名は、第7回平和を願う文京戦争展。

実施は、令和7年8月10日(日)から8月12日(火)までの3日間を予定しております。

実施場所は、文京シビックセンター アートサロンでございます。

3 ページの一番下の行にありますとおり、本事業は、「戦争とは」を考えてもらうこと、話し合っ

てもらうことを目的に実施するものでございます。

対象は、文京区内の小・中学校の児童・生徒・教師・保護者・高校生・大学生・区民の方です。
参加費は、無料です。

このほか、資料といたしまして、実施要綱・事業計画書、予算書、会則等がございます。

以上の内容を後援名義等使用承認要綱の規定に照らし、後援名義の使用をよろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

○丹羽教育長 この説明につきまして、ご意見、ご質問等はございますでしょうか。

○清水委員 大変すばらしい写真展で、これまでも何回かアートサロンで開催されたのだと思います。この後援名義に関しましては、教育委員会でこれまでも何度か議論をしてきましたが、それで見送られていたわけです。今回新たにまた申請いただきましたが、何か前回と変わったこととか違ったところがもしあるようでしたら教えてください。

○教育総務課長 こちらの展示の内容については、詳細まではまだ定まっていないということでしたけれども、基本的に今までどおりということで、これまで教育委員会でも大きな論点となっていました南京大虐殺のところも従来どおりと聞いております。

以上です。

○丹羽教育長 ほかにいかがでしょうか。

○福田委員 過去に見送られた理由は、明確にどういう理由で見送られたか、改めて教えていただけますか。

○教育総務課長 先ほど南京大虐殺というお話をいたしましたけれども、この南京大虐殺については、日本政府としては、非戦闘員の殺害や略奪行為があったことは否定できないが、被害者の具体的な人数については諸説あり、政府としてどれが正しいかを認定することが困難である、そういう見解がございます。

この事業の内容、いわゆる戦争の悲惨さとか、そういったところを区民や子どもたちに伝えるというところについては、教育委員会としても何ら異論はないところですが、この南京大虐殺について、政府が公式見解を出していないという前提で考えると、そこについて教育委員会として後援名義を出すのは難しいというのが、これまでのこの委員会での議論でございました。

○中野委員 今のところで、私も新たに教育委員になったので、過去の議論も少し目は通したのですが、一般論として、私個人としては、別の後援名義のときにも言ったのですが、後援するからにはある程度教育委員会からも意見が出せる部分もあるのかなと思っています。その意味で、過去の議論で言うと、教育委員会から修正だとか、こういうふうにしてもらえれば後援できるというような提案はあったのか、それに対する対応はどうなっていたのか、教えていただけますか。

○教育総務課長 これまでの議論の中で、例えばこの部分を出さないとか、そういうふうにはできないかという形で主催者の方とお話をしたことはございましたけれども、結果として、南京大虐殺につきましてはこれまでどおり出すという形で現在に至っております。

○中野委員 個人的に、これが開催されること自体は文京区内でやられること自体はよいと思うんですけども、文京区教育委員会としてお墨つきを与える上では、先ほどの政府見解の認識と、それどおりでなければいけないというわけではないけれども、少し表現を見直す必要があるという理

解でよろしいでしょうか。

○教育総務課長 そのような認識で、政府が公式見解を出していない以上、何らかの形で南京大虐殺が出てしまうと、それが政府の公式見解と違うということになるので、そこについてお墨つきを与えるのは難しいという議論は、これまでもこの教育委員会の場でも、また主催者ともお話し合いをしてきた経緯は過去にございます。

○丹羽教育長 ほかにいかがでしょうか。

○福田委員 1点だけ。争点は南京大虐殺だけでしたっけ。

○教育総務課長 初期のころの議論では、例えば刺激が強すぎるのではというお話もありましたけれども、そこはだんだん集約されていきまして、最近では南京大虐殺が論点になっていったという状況でございます。

○福田委員 私自身も、このイベント自体が行われることに何ら異存もなく、一方で、南京大虐殺というものは社会一般的に政府見解を含めて議論があるところだというのは理解もしています。

一方で、私個人的にもちょっと気になったのは、「日本が中国を侵略し戦火を広げ」という、日本が侵略して戦争が拡大していったという見解とか、そこは過去に議論になったことはないのですか。というのは、我々文京区教育委員会としては、やはり中立公正であるべきで、何か1つの見解によることはできず、過去において中立公正という観点からもし後援が見送られたという経緯があるのであれば、今回、過去に提出されたときと何ら変更がないのであれば、これはなかなか認めにくいのかなとちょっと思った次第です。

○教育総務課長 日本が侵略をしたというところについては、これまでの教育委員会では、特段、議論の中身にはなっていないかと認識しております。

○清水委員 文京区が使っている社会科の教科書でも南京事件のことは扱っているかなと思いますが、その辺の記述とかに関して、もしよろしければ。

○丹羽教育長 教育指導課長、わかりますか。——手元がないとわからないですよ。

○清水委員 恐らく、「大虐殺」という言葉は使っていないかと……。

○丹羽教育長 全ての教科書は文部科学省の検定を経ているものですので、政府見解と違うことを書いているということはないと思います。例えば、日本が中国を侵略したとか、そういったことは多分恐らく書かれているのではないかと。表現まではわかりませんが、書かれていると思います。

○教育指導課長 表現は、1冊ずつ確認しないとわからない。

○丹羽教育長 文京区の採択しているものでいいと思います。ただ、私たちが見ているのは基本的には文科省の検定を受けた教科書ですから、当区が採用しているものもそうですし。ですから、政府見解と違うことが書かれている場合には、多分検定は通らないのではないかと考えられますので、そこは大丈夫だと思います。教科書等はそうだと思います。

○清水委員 福田委員もそうですし、我々が実際に見て選んでいるわけですので、「虐殺」とか、そういう言葉はなかったというのは確認はしています。

○丹羽教育長 ほかに何かございますか。よろしいですか。

先ほどから、教育総務課長からも説明しているとおり、これまでも何回か議論をしてきて、最後に南京の事件のところで承認できないということで、これまでも決定してきたものでございます。

そして、展示内容についてはこれまでと変わらないということになっておりますので、後援については承認しないということで決定させていただければと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

○丹羽教育長 そうしましたら、この件については後援名義の使用については承認しないということで、決定させていただきます。

第55号議案 「第10回電子オルガンコンサート」の後援名義の使用について

○丹羽教育長 続きまして、第55号議案「第10回電子オルガンコンサート」の後援名義の使用についてでございます。この件について説明をお願いいたします。

○教育推進部長 ただいま議題となりました第55号議案、「第10回電子オルガンコンサート」の後援名義の使用につきまして、提案理由をご説明いたします。

1 ページの後援名義使用申請書をご覧ください。

申請団体は、尚美同窓会。

代表者は、佐藤日呂志でございます。

事業名は、第10回電子オルガンコンサート。

実施は、令和7年9月7日(日)を予定しております。

実施場所は、尚美バリオホールでございます。

本事業は、地域住民の方々や児童・生徒に対し、電子オルガンの公演を鑑賞していただくことで、電子オルガンの演奏技術の可能性や芸術性を体験し、音楽的な感性を磨く機会とすることを目的としております。

対象は、地域住民の方々及び児童・生徒。

参加費は、無料となっております。

このほか、資料といたしまして、事業計画書、事業予算書、規約等がございます。

以上の内容を後援名義等使用承認要綱の規定に照らし、後援名義の使用を承認したいと考えるものでございます。よろしくご審議の上、ご決定賜りますようお願い申し上げます。

○丹羽教育長 この説明につきまして、ご意見、ご質問等がありますでしょうか。こちらはよろしいですか。

それでは、お諮り申し上げます。ただいまの件につきまして、提案理由のとおりお認めしてよろしいでしょうか。

(異議なし)

○丹羽教育長 それでは、そのように決定させていただきます。

第56号議案 「文の京、文京区だからできる！夏の自由研究スペシャル 日本を知り、世界を知る名誉教授らと体験する科学」の後援名義の使用について

○丹羽教育長 続きまして、第56号議案「文の京、文京区だからできる！夏の自由研究スペシャル 日本を知り、世界を知る名誉教授らと体験する科学」の後援名義の使用についてでございます。この件について説明をお願いします。

○**教育推進部長** ただいま議題となりました第 56 号議案、「文の京、文京区だからできる！夏の自由研究スペシャル 日本を知り、世界を知る名誉教授らと体験する科学」の後援名義の使用につきまして、提案理由をご説明いたします。

1 ページの後援名義使用申請書をご覧ください。

申請団体は、一般社団法人宇宙・地球・生命研究所。

代表者は、宇住晃治でございます。

事業名は、文の京、文京区だからできる！夏の自由研究スペシャル 日本を知り、世界を知る名誉教授らと体験する科学。

実施は、令和 7 年 7 月 21 日（月）から 8 月 31 日（日）までの 41 日間を予定しております。

実施場所は、当法人の本社ビル、旅館鳳明館、メールまたは ZOOM でございます。

本事業は、夏の自由研究を通して、子どもたちが自然の不思議に気づき、科学的思考ができるようになるきっかけを提供すること。また、子どもたちが、生活や歴史と科学のつながりを教科を越えて学び、体験することを目的としております。

対象は、主に小学 3 年生以上の子どものほか、どなたでもご参加いただける事業もございます。

参加費は無料ですが、一部教材費 1200 円の実費負担がございます。

このほか、資料といたしまして、事業計画書、事業予算書等がございます。

以上の内容を後援名義等使用承認要綱の規定に照らし、後援名義の使用を承認したいと考えるものでございます。よろしくご審議の上、ご決定賜りますようお願い申し上げます。

○**丹羽教育長** この説明について、ご意見、ご質問等はございますでしょうか。

○**中野委員** すごく細かいことにはなるんですけども、このタイトルの「文京区だからできる」の趣旨はどのようなところにあるかわかりますか。

○**教育総務課長** この団体が文京区内の団体ということもあり、地元というところで、あえて文京区ということを出したというふうには思っております。「文京区だからできる」というのは、ほかだったらできないのかといたら、そういうわけではないとは思いますが、地元の自治体というところを強く押し出して、特に文京区の子どものためにという意味のあらわれなのかなと認識しております。

○**中野委員** ほかでもできそうな気がしますし、科学は、文京区以外の全ての子どもたちにも開かれているべきではないかということは、少し思いました。

○**丹羽教育長** ほかにいかがでしょうか。

○**福田委員** これは 41 日間、開催されているということは、ずっとブースを設けて、いつでも相談できるよという、相談窓口を設けるというイメージなのですか。

○**教育総務課長** 期間としては 41 日間なのですが、日程的には、資料 2 ページで幾つか日にちが決まっております、その一番最初から一番最後までがそれに近い期間であることと、期間中 41 日間は⑤の Web サイトの問い合わせフォームで相談ができるということもありますので、ここの部分は継続して、それ以外のところは日にちの決まったイベントということだと認識しております。

○**福田委員** 要は、4 回のイベント、プラスアルファで相談窓口はいつでも受け付けますよという

イメージですね。

○教育総務課長 はい。

○丹羽教育長 ほかにいかがでしょうか。

○清水委員 今回は1回目ということでよろしいですか。

○教育総務課長 資料3ページを見ますと、こういった夏の自由研究ワークショップは2023年度から開催していると記載されております。教育委員会の後援の申請をいただいたのは、今回が初めてになります。

○清水委員 またこの後も続くとして、「文京区だから」というのはずっと続くのですか。(笑)ほかの区でやっていこうというのではないのでしょうか。もともと中央区から文京区に移ったみたいですけれども。

○教育総務課長 名称のつけ方について教育委員会のほうでこういうご意見があったということについては主催者に伝えまして、次回以降、ご検討いただくように依頼をしたいと考えております。

○清水委員 「ぜひ継続してください」とお伝えください。

○丹羽教育長 ほかによろしいでしょうか。これはよろしいでしょうか。

では、お諮り申し上げます。ただいまの件につきまして、提案理由のとおりお認めしてよろしいでしょうか。

(異議なし)

○丹羽教育長 では、そのように決定させていただきます。

こちらで議案のほうが終わりました。

第3 報告事項

(1) 令和6年度学校評価の報告について

○丹羽教育長 次に、報告事項に入らせていただきます。本日は1件ございます。

「令和6年度学校評価の報告について」です。この件について、説明をお願いします。

○教育指導課長 資料第1号によりまして、令和6年度学校評価についてご報告いたします。

学校評価は、法改正に基づき、平成20年度より実施しているものでございます。このたび、令和6年度の結果がまとまりましたので、報告させていただきます。

まず初めに、2ページをご覧ください。「学校関係者評価共通項目(集計結果)」でございます。昨年度と比較しますと、小学校でBの評価がふえておりますが、全体としては肯定的な評価が多くなっており、適切に評価いただいたと感じております。

続きまして、3ページです。「保護者アンケート(区共通項目)集計結果」でございます。「とてもあてはまる」と「まああてはまる」の割合を足して高い項目だったのが、幼稚園、「本校(園)の子どもたちは、学校での生活が楽しいと感じている」となり、小学校と中学校では、「本校(園)の教育活動に満足している」となります。

一方、「あまりあてはまらない」と「まったくあてはまらない」の割合を足して高い項目だったのが、幼稚園は、9番目の質問事項「本校(園)は、区や学校の方針等に対する保護者の意見をよく聞き、保護者と協力して教育を進めようとしている」でした。昨年度も同様の項目が高い項目でし

たが、昨年度より数値は下がっております。小学校では、6番目の質問項目「本校は、日頃よりいじめの未然防止に適切に取り組むとともに、学校生活で起きたいじめ等の問題に対して、素早く丁寧に対応している」でした。また、中学校では、4番目の質問項目「本校（園）では、特色ある校（園）づくりに積極的に取り組んでいる」でした。

続きまして、4ページは、学校関係者評価により、校種ごとの重点目標に対する肯定的な意見、改善に向けた意見という形で、それぞれ抜粋ではありますが、参考として添付してございます。特徴的なところを幾つか触れさせていただきます。

まず、幼稚園の「家庭と地域」についての意見でございます。中黒2番目の、園が小学校との連携を図り、保護者の不安に寄り添っていることがわかります。

続いて、小学校の「家庭・地域との連携」についての意見でございます。中黒1点目の、児童の学校生活をよりよくしようと努力している教職員の取り組みを丁寧に評価いただいていることがわかります。

中学校の「信頼される学校」では、中黒2点目の、生徒の地域の貢献が評価されている一方、地域によっては生徒との結びつきが薄れているところがあるので工夫が必要であるということ指摘いただいております。

この学校評価、報告を受けまして、今後も園・学校と連携し、学校支援に向けた手だてを講じてまいりたいと考えております。

以上で報告を終わります。

○丹羽教育長 この件につきまして、ご意見、ご質問等がありましたらお願いいたします。

○中野委員 保護者アンケートの項目とかは区がつくっているのでしょうか。

○教育指導課長 本区のほうでつくっております。

○中野委員 私も回答者として回答していると思いますが、若干抽象的な内容が多くて答えにくいなと思った経験があります。「まああてはまる」、「あまりあてはまらない」の間で迷いながら回答する人も多いのではないかと思います。もう少し項目をふやして調査をすとか、何かしら項目の見直しなどは検討されていることがあるか、教えていただけますでしょうか。

○教育指導課長 貴重な意見をありがとうございます。今おっしゃっていた選択項目の5項目を、もう少し具体的にわかりやすくというお話かと思えます。そちらについては、また指導課のほうに持ち帰り、来年に向けて検討させていただければと考えてございます。

○中野委員 もう一つ、保護者の立場からすると、割と担任の先生によって満足度が変わったり、このアンケートがどういうふうに使われているんだろうというところも、学校レベルでも、答えた後が少し見えにくいかなという気もしています。何かしら、例えば学校ごとに見たときに、特定の項目がすごく悪かったりしたときに、それが学校の改善につながったり、さらなる調査をすとかいう行動につながったりすることはあるのでしょうか。

○教育指導課長 例えばですが、調査が必要な場合には、第三者委員会というものもございしますが、現在そこまで調査が必要な内容は上がってきてはございません。また、学校で重要視する部分については、学校評価を、一度、学校評価委員会というところから上げていただいたり、いろいろな意見を吸い上げています。学校の現在の目標の到達度とか、来年に向けた改善というところで、例え

ばコミュニティ・スクールとか、学校連絡協議会とか、そういう場に戻して改善の一助にしていくという活用の仕方を、現在は行ってございます。

○丹羽教育長 中野委員がおっしゃったとおり、ちょっと抽象的な内容が多いとか、そういうのは私もわかるんです。ただ、多分、教育指導課のほうで検討してもらえと思いますが、これは経年的にやって、上がったりがったりも見ているのですよね。だから、その辺を工夫していただく。

○教育指導課長 教育長におっしゃっていただいたように、この調査は、過去ずっと経年的に見てきて、学校の傾向とか園の傾向を捉えながら、区としてそれを捉えて教育施策に生かしているものですので、その辺も少し検討しながらという形になるかなと思います。

○丹羽教育長 あと、結果については、たしか学校だよりみたいなところで紹介されていたかなと思います。ただ、紹介されているだけというのはあるんですけどね。

○教育指導課長 今、お話がございましたが、学校ごとに、保護者のほうにもこの結果をきちんと返すという形でやっています。例えばホームページに記載したり、学校長が学校だより詳しく、この項目についてはこういった課題があるので、来年度はこうしていきたいというようなコメントを載せているとか、各学校（園）ごとにそういった工夫をしております。

○中野委員 例えば、いじめの項目が特定のクラスですごく数値が変わっているとかだと、明らかに対応が必要な気がしましたが、そういうところはある程度、学校ごととかで見えらっしゃるということですか。

○教育指導課長 もちろんでございます。以前から、いじめの項目については、なかなかわかりにくいという保護者からの意見もいただいております。そんな中で、例えばですが、今、委員がおっしゃったように、そのクラスでいじめがあったということであると、子どもたちも保護者のほうも、かなり意識が高く、そのアンケートに答えていると捉えています。なかったところについては、実際に自分が経験していない、あるいは見聞きしていないものなので、なかなか答えづらいところがあるのですが、それを受けて学校に、我々教育委員会のほうから、いじめについてもっと着目した、例えば全校集会であったり、皆さんが意識を高められるような形で子どもたちに周知してください、保護者会等でも、いじめについては、学校はこういう取り組みをしているということを、校長の口からはっきり話してくださいというような取り組みを学校のほうに進めてございます。

○丹羽教育長 ほかにいかがでしょうか。

○福田委員 もう一回、確認させていただきたいのですが、別紙1のほうは学校側の自己評価になるのですか。

○丹羽教育長 これは「学校関係者評価」ですよ。

○福田委員 「学校関係者評価」とはどういうことなのかなと思ったのが1つと、もう一つ、別紙2のほうは保護者のアンケートになるのですよね。

○教育指導課長 そうです。

○福田委員 保護者のアンケートを拝見していて思ったのは、年齢が若ければ若いほど、同じ質問なのに回答が左側に偏っていて、小学校、中学校と、年齢がどんどん上がっていくにつれて、保護者側の満足度という言葉が正しいのかどうかわかりませんが、回答がやや右側に少しずつシフトしていつている。これはどういうふうに考えていらっしゃるのか。いい、悪いではなく、どういうふ

うに分析されているのかなど。以上の2つをお伺いできればと思います。

○**教育指導課長** まず1つ目の「学校関係者評価」ですが、学校の教育活動を保護者や地域の住民、PTAのOBの方とかに入っただいて構成された評価委員会をつくって、学校がそちらでアンケートをお願いして、答えていただいたものをまとめたものでございます。

それからもう一つ、少しずつ数値がというところは、分析というところまではいかないのですが、やはり幼稚園から小学校、中学校に上がるにつれて、保護者の方の、学校や学校教育に対するご希望等が少しずつ上がってきているというところがございまして、その辺を我々はきちんと捉えて教育活動に生かしていかなければならないと考えてございます。

○**福田委員** どちらかというところ、保護者が学校に求めるものが上がっているというよりも、多様化している感じが、私も親として強く感じるところで、それに対して全てに応えるというのはなかなか難しいのだろうなと勝手に解釈はしているんですけども。

○**教育指導課長** 成長段階において、例えば小学校の場合ですと、なかなか小学生が学校の様子だったり課題だったり保護者に伝えられないというところもあるのですが、中学校になりますと、自分で考えて、例えば物事を自分の評価の中にあらわしたりすることもできるようになってきます。その辺のところは保護者だけでなく、子どもたちの生の声もこういった評価ですくっていきながら、学校の教育活動の改善に努めてまいりたいと考えてございます。

○**丹羽教育長** よろしいですか。ありがとうございました。

第4 その他の事項

○**丹羽教育長** 用意した案件は以上でございまして、その他がありましたら、お願いします。

○**児童青少年課長** 前回、5月7日の教育委員会で報告いたしました「令和7年度育成室入室状況について」の質疑の中で、中野委員からのご質問に対する答弁に誤りがございましたので、この場をかりて訂正をさせていただきたいと思っております。

双子、多胎児の入室についてのご質問のところ、育成室の利用基準に、多胎児の調整指数上の加算があるとの回答をいたしました。正確には、兄弟・姉妹についての加算はあるが、多胎児の加算はないということになります。

おわびして訂正いたします。大変申しわけございませんでした。

○**中野委員** その質問をした趣旨としては、多胎児の加算があるべきではないかということをおし上げたかったので、そうであれば検討をお願いしたいと思います。

○**丹羽教育長** ほかにございせんか。

それでは、第6回定例会はこれをもって終了させていただきます。ありがとうございました。

(14:50)

令和7年6月4日

議事録署名人

教育長

委員